

**節分の由来**

節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを言います。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り返し目として3日ごろに行われています。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺や年男たちが豆をまくところもあります。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられていたからです。

いわしの頭を家の入り口に刺したり、柵の木の枝を刺したりするのは、鬼はいわしが嫌いなので逃げていくため。柵は、枝にとげがあるので鬼が恐れているからだと言われています。

保育園でも豆まきをしますが、自分の心の中にある“ちょっぴり意地悪鬼”“泣き虫鬼”“怒りんぼ鬼”などを追い出して、元気な子どもに成長してくれることを願っています。

ふれあいの部屋

お仕事帰りにホッと一息。温かい飲み物と保護者の皆さん、担任たちとの楽しいおしゃべりで、リフレッシュしていただけたらと思います。進級についてのお話もします。

3月に予定しているクラスもあります。日時は行事予定やミニコミなどでお知らせ致します。

もも組進級説明会

来年度4月から幼児組に進級するもも組保護者の方に、幼児組の生活の流れなどをお話します。

ぜひ、ご参加ください。

日時：2月 16日(火)
1回目午後4時30～
2回目午後5時30～
場所：4階 ランチルーム

**平成 28年 2月の園だより****安心して表現できる自分の居場所**

先月末には、西日本にも大寒波が来て、子どもたちが無事に登園できるか心配しましたが、皆さん無事でほっとしました。子どもたちは雪に大喜びで、早速、一面銀世界の屋上に上がって走り回り、「ふわふわ。」「つめたいね。」「とけちゃった。」「かりかりって音がするよ。」など、たくさんの発見をしました。四季折々に移り行く季節の中でも小さな身体いっぱい、たくさんの発見をしているようです。

さて、この頃、朝夕のひと時に、泣いている子どもたちの側で困っている保護者の方から、「ひっくり返って泣きます。」「まったく言うことを聞いてくれない。」「イヤ、としか言わない。」等の声を耳にします。成長の過程だとわかってはいても特に忙しいときなどには大変ですね。これは、大好きなお父さんやお母さんの思いを拒否することで、大人とは違う自分を主張するようになってきたということです。大人の言っていることがわからないわけではないけれど、今は大人の言う通りに行動したくない自分が存在するのです。「いちいち言われたくない」「自分で決めたい」という思いが「イヤ」という言葉で表現されています。また、「イヤ」という自分の主張がどこまで通るのか、ぎりぎりまで試しながら、自分の要求と相手の要求、その両方を見比べてどちらかを選択しようとする力が育ってきているのです。自我の芽生えとよく言いますが、それは、自分の思いをぶつけながら、折り合いを

つけていく力なのです。「私はこうしたい」「これが好き」という主張ができるということは、何よりも自分が大切な存在なのだということが根底にあるからこそです。自分の気持ちを思い切り表現できているということは、愛情いっぱい、大切に育てられたということ、保護者の方々の今までの関わりが間違っていなかったということ、ちゃんと受け止めてくれる優しい存在があるということです。“安心してください”のびのびと自分の思いを出している方が、これから先の人生においてはとても大切なことなのです。そして、そんな子どもたちとの関わりの中では、つつい言うことを聞かせようと、「〇〇買ってあげないよ。」などは言わないように気をつけましょう。どんどんエスカレートしていきます。まずは、①子どもの気持ちを言葉にする「そう、〇〇は嫌だったね。」②しばし待ち、大人の考えを伝える「〇〇の方がいいと思ったのだけど」③子どもに決めさせる「こっちの〇と、こっちの〇とどっちがいい？」などの方法が有効です。まずは、何を伝えたいのか、子どもの思いを理解しようとする柔軟さが大切です。理解してもらえて、ありのままの自分を出せる場所が子どもの居場所です。子どもたちは、毎日、心の葛藤を繰り返しながら力をつけているところなので、しばらくの間、大人の側の我慢が必要ですね。イライラした時は、7秒待って、大きく息を吸って、ふっくと吐いてください。ちょっとリラックスできますよ。

子育て応援コラム**「絵本の与え方」**

福音館相談役 児童文学者 松居 直

絵本と子どもについて

- ① 子どもにとって絵本は役に立つ、ためになるといったものではなく、“**楽しみそのもの**”だということ。一冊の絵本が、子どもに与える楽しみと喜びの大きさによって、その中身は深く心に残り、子どもを本好きにする原動力となります。
- ② **絵本は、子どもに読ませる本ではなく、“大人が子どもに読んであげる本”であること。**絵本を読んであげる事が、子どもの成長に大きなよりどころを与えます。絵本は親と子が心を開き、通い合わせる心の広場です。
- ③ **子どもが好きな絵本は繰り返し読んであげる事。それが読書への大切な入口です。**読書は字を読む事ではなく、一冊の本の中へ夢中になって、我を忘れて入り込み、楽しむことです。
- ④ **絵本は読みっぱなしで良いのです。読み終えた時にあれこれと質問して無理にわからせようとしないこと。**一冊の絵本を読み終えた時の喜びや満足感を大切にすることが読書の楽しみです。

心を込めて絵本を読んであげてください。その時、子どもはあなたの方に心をいっばいに開き、耳を傾けてあなたの言葉を聞くでしょう。自分に向いているあなたの愛情をいっばい感じるでしょう。それが親子なのです。子どもたちは、絵本の読み聞かせて、多くの喜びと楽しみ、幸せを味わう事ができ、その幸せを与えられた子どもは、自らの幸せをしっかりと築き上げ、人とそれを分かち合える人間に育つのです。



寒さが続いて、お外に出られない日や、お休みのひとときは、親子で絵本の世界を楽しませてはいかがでしょうか。



**消さないで
あなたの心の
注意の火**